

「図書館友の会」について

——米国の諸例を中心に——

尾 形 国 治

欧米においては、図書館友の会の組織は実にさまざまな貢献を図書館及び地域社会にもたらしてきたのであるが、一方、わが国における友の会の現状をみると、欧米のそれらに比して、きわめて素朴な状態であるといわざるを得ない。

戦後、昭和二四、五年頃から三〇年にかけて、東大に東大図書館学会があったが、これはあくまでも学会であって、友の会の性格を有するものではなかった。

次いで、昭和三八年に、日比谷図書館に、東京都立日比谷図書館団体貸出利用者連絡協議会（俗称日比谷友の会）という団体ができた。この友の会の会員は、団体貸出係の窓口を通して図書の出借を利用してゐる勤労青少年である。この利用者の集いが日比谷友の会で、会費（年額六〇〇円）によって、独自の運営がなされている。その活動は春秋二回の都内近郊の文学散

「図書館友の会」について

歩程度で、親睦グループ的性格を有するものである。台東区立図書館にある「利用者のつどい」も同種のものといえよう。

関西地方にもこの種のグループがある。名古屋市立西図書館の巡回文庫運営協議会、大阪市立天王寺図書館の天王寺図書館友の会（昭和四一年一月発足）、大阪府立図書館の巡回文庫利用者連絡協議会などである。

これらは、それぞれ独立した組織の会員制で、会費により運営されているが、あくまでも利用者のつどいの域を出ないものである。名古屋市立巡回文庫運営協議会の場合は、定期総会・文化人の講演会・近郊文学散歩のほかに、会員の利用する図書の選定を行なっていることは注目に値しよう。

このほかにも、これに類したグループが各地の公共図書館にあるのではないと思われるが、それを知る術がないのは残念

である。

以上述べてきた友の会とは、その性格をまったく異にする、すぐれてアメリカ的な意味における友の会が、一昨年六月、日本女子大に発足した。上代たの先生を会長とする「日本女子大学図書館友の会」⁽¹⁾がこれである。これを機会に、欧米、とくに米国における図書館友の会についてその概略を紹介してみたいと思う。

なお、これについて、日本女子大学図書館の相馬文子氏の協力をしていただき、恰好の資料を入手することができた。すなわち、*Friends of the Library Organization and activities*; ed. by Sarah Leslie Wallace for the Friends of Libraries Committee of the Library Administration Division, A. L. A., Chicago, 1962. *by Mabel L. Conat* (p. 1-11) についてのみ概観すれば、事足りるであろうか。内容のあらましは左の通りである。

- (1) [Preface]
- (2) Earliest friends groups
- (3) Friends and public libraries
- (4) College and university friends
- (5) County, regional, and statewide groups
- (6) Friends and the American Library Association
- (7) Work of the friends

このうち、(6)については後日を期すことにして、今回は、(1)と(5)と(7)を、訳者の調べたところに従いまとめてみた。原注はそのままだが、訳者のつけ加えた訳注をも合わせて参考にしていただきたい。以下は、その大要である。

序 文

図書館を援助する目的で、図書館友の会という外郭団体がつくられるようになったのは、二〇世紀になってからであるが、図書館の設立と維持のための協力態勢はさらに以前からあった。

一八〜一九世紀初め、合衆国の図書館が公費助成⁽³⁾によって維持される以前に、自分たちの地域社会に図書館建設を意図する多くの市民のグループがつくられた。これらのグループは *library companies, societies, associations* と呼ばれ、*募金*、*会費*、*株主制度*によって維持されていた。後、これらのグループのうち、近代的意味における図書館友の会にまで発展したものもあるために、ある意味で図書館友の会運動 *Friends of the Library movement* の先駆と考えられる。

これら初期の会員制の図書館 *membership library*⁽⁴⁾ の例としては、読書を普及させる目的で一七三一年にペンシヤミン・フランクリンによって設立された *Library Company of Philadelphia*⁽⁵⁾ と、一七九四年にヴァージニア州のアレクサンデルに設立された *Alexandria Library Company*⁽⁶⁾ がある。前者は現在も会員制の図書館として存続し、後者は、アレクサ

ンドリア図書館が、同カンパニイの長年の努力の結果、一九三七年に公共図書館となるまでは同図書館の管下にあったが、現在、当初の名前そのままに援助機関として同図書館に貢献している。その機能は今日の多くの図書館友の会とほぼ同一である¹⁾。

前述のように、それらは図書館の地位獲得の手段となり、ある種の行政機能を保有してきた例を除いてはほとんど同一の発展形態をたどってきている。

図書館友の会という名称が、図書館援助の団体に対して用いられるようになる以前に、アメリカ図書館協会（以下ALAと略）公共図書館局によって作成された、一九五五年の図書館友の会に関する計画書に明示されているような立場²⁾で活動していたグループもあった。この意味で最も初期のもの³⁾に、図書館購入と図書館援助のために一八九六年にカリフォルニア州に設立された San Juan Bautista Library Auxiliary of San Juan Bautista がある。他にこれと類似した性格のグループに、Davis Library Club of Davis がある。これは図書館建設と図書購入資金募集を意図して、一九〇六年にカリフォルニア州に設立されたもので、共に現在なお健在である。

初期の 友の会

図書館友の会と称した最も初期の組織は、一九一三年にフランスのパリで設立された La Société des Amis de la Bibliothèque Nationale

et des Grandes Bibliothèques de France で、その目的は、フランス国内の重要図書資料の充実化にあった。同友の会のアメリカ支部は、一九三〇年にカリフォルニア州のバークレーに設けられ、現在も親団体と同じ活動を続けている。

図書館友の会といい得る最初のグループが合衆国にできたのは一九二二年で、イリノイ州のグレン・エリンに設立された Friends of the Library of Glen Ellyn Free Public Library であった。同友の会は、設立当初から一貫して同図書館に強力な援助を行なってきた。さまざまなアトラクションを催したり、その他種々な方法で資金を募り、学校図書館の拡張事業にも役立ってきた。

また同年ニューヨークのシラキュースに Friends of Reading of Onondaga County が発足し、以来活動を続けて、現在は Syracuse (New York) Public Library と連繫して、良書を読む運動と図書館事業の振興とに寄与している。

友の会と 公共図書館

公共図書館友の会は、一九三〇年以降急速にひろまってきた。その著しい増加の傾向は、ALAの図書館友の会に関する報告書のなかの数字によって示されている。

約一〇年単位で見ると、一九三七年(三五)、一九四一年(三八)、一九五一年(一五三)、一九五五年(四四三)³⁾である。一九五五年以降の全国統計はでないが、次に引用する二州

の数字は、友の会の継続的増加の傾向を示している。

カリフォルニア州の記録をみると、一九五五年（二二）、一九五九年（三九）、一九六一年（八三）である。ミシガン州では、一九五五年（一八）、一九五九年（四七）、一九六一年（七三）である。

大部分の公共図書館友の会は、図書館員や同理事者と一体になって活動した公共心に富んだ市民によって造られたが、公民館とか民間団体などが率先して会を組織した例もある。友の会はその地域社会の性格と特殊な地域的必要性に応じて、その構造、目的及び活動はきわめていろいろであった。

初期の友の会の大部分は、多くの図書館が予算削減により、必要図書と施設を備えるのに外部からの援助に依存しなければならなかった不況の時代に誕生した。また図書館側も、こうした組織市民の積極的な理解と援助を得ることの価値に気付いてきた。

図書館雑誌に度々現われた、「何がなされたらよかったのか」ということについての種々の所説のなかで、一九三四年、ALA特別委員会の委員長だったジョージ・B・ユトレイ氏が発表した論文は特にこの点を指摘している。つまり、図書館は組織的背景がないために苦しんでいる……、もし何年にもわたって、多くの時間と努力をかけることが許されていたならば、図書館は一般市民のなかに頼みになる友の会をつくり上げ得ただろう。また、それは、同窓会やP.A.T.が学校に対するように、

図書館に寄与貢献をしただろう。さらに図書館は、特別会員や団体を通して、政府の諸機関との間に有益な関係をもつ事もできたであろう。

大学の友の会

合衆国で、研究機関と連繫した最初の友の会は、「最も効果的な援助」を与える目的で、一九二五年にハーヴァード大学につくられた *Friends of the Harvard Library* であった。同大学には、そのずっと以前に *Friends groups* と称するグループがあったが、本質は同じであった。

今世紀前後にアーチヴァルド・C・コリッジ氏とエドガー・H・ウェルズ氏は、ハーヴァード大学図書館の特殊資料の充実化を企て、多くの人々に協力を求めた。一九〇〇年から一〇年間に各種多数の寄贈があり、各分野の蔵書を一層充実させたが、寄贈者の理解を高める方法がとられなかったために、寄贈者は次第に減少するようになった。

第一次大戦の翌年、当時ハーヴァード大学図書館長で、自館の各種資料の充実化のためにヨーロッパに渡っていたアーチヴァルド・C・コリッジ氏は、*Bibliothèque Nationale* で造られて間もなかった図書館友の会の仕事に興味をもち、同時にそういう組織がハーヴァードにも必要であると確信した。

一九二五年のハーヴァード大学図書館友の会の設立とその成功は、他の大学や特殊研究図書館のグループ結成に刺激を与え

た。一九三〇年までに、コロンビア、エール、プリンストンとジョンズ・ホプキンスの各大学で友の会が設立され、一九三八年までには五〇の友の会が「造られたか、または造られつつある」と報告されている⁴。一九四九年には一〇二の友の会が存在した⁵。これらの会の大部分は Friends of the Library と呼ばれたが、(Library) Associates, Association, Society と呼ばれたものもあった。

それらは、卒業生や教師の小グループが、図書館員と協力して組織の中核をつくったが、それらの目的は基本的には同一であった。つまり、図書館事業の振興と、通常の図書予算ではとても買えない貴重な資料の購入とを助成することであった。

郡、地区、 州友の会⁽⁷⁾

一般的に、友の会は公共図書館及び大学図書館、あるいは私立の研究図書館などの特殊な機関に附随してつくられてきたが、郡・地区・州の友の会も多くある。(アメリカの州 state をわが国の県にたとえると、カウンティ county は郡ということになるが、規模ははなはだしく違う。リージョン region は行政上の区画である。「地区」と訳す)

合衆国の郡友の会は、実際には友の会の運動の当初からあり、あるものはカウンティ組織 county system⁽⁸⁾ の必要に応じてつくられ、他方はカウンティ内の小分館 small branch library を援助する目的でつくられた。活発な友の会をもつカウ

「図書館友の会」について

ンティ図書館 county library 及び地区図書館 regional library は、一九五五年までに四〇以上になった。

地域内の図書館へ奉仕するために、複数の友の会を有するカウンティ組織もある。たとえば、ヴァージニア州の Fairfax County Library には活発な友の会が三つある⁹。カリフォルニア州の Contra Costa County Library system の一五の分館にはそれぞれ友の会がある。また、Los Angeles County Public Library には友の会が六つありそれぞれ同図書館の分館 branch library に奉仕している。

大部分の州友の会と外郭団体 lay group と呼ばれる市民組織は、州図書館協会あるいは同委員会あるいは州立図書館と密接に結びついて活動している。最も初期の州友の会は、「図書館援助、図書館と協力しての講演、教育及び集会活動を行なうこと」を意図した市民団体によって一九一八年につくられた。経費は会費よりも寄贈や遺贈でまかない、各地域内の図書館員のための研修会や研究発表会なども催した。同友の会は、現在マサチューセッツ図書館管理局と協力して図書館事業の発展に貢献している。

一九二七年に設立した North Carolina Citizens Library Movement は、南部でつくられた小数の友の会の最初のものであった。これら大部分の友の会と、その他各地域につくられた同種の会の主な目的は、とくに地方の図書館事業の振興のために、市民の理解と援助をもとめることであった。また、全州的

な奉仕活動を行なうために、助成金の増額と法的根拠の獲得に役立つまでに成長した強力な友の会もあった。

現在も活躍している Louisiana Citizens Library Movement がそうである。一方、極めて熱狂的に発足したが、明確かつ一貫した行動計画がなかったために、活動の停滞を招かざるを得なかった例もあった。

ALA の一九四一年の記録によると、州全体の州立図書館友の会の数は、同年までに一九になった。このうち図書館友の会と呼ばれたのは三つで、他は citizens library movement, committee, league あるいは council と呼ばれた。一九六〇年の ALA 会員録の「州理事会と図書館協会」の名簿で、前述の名称を用いているのは二つだけである。

Friends of Kentucky Libraries や Texas Friends of Libraries のように、独立の州友の会もあるが、大部分の友の会は、現在、自力か理事会と協力するかのどちらかの形で、図書館友の会委員会 Friends of the Library committee か州図書館協会局 Section of the state library association が目的とする全州的な友の会活動に集中する傾向にある。

Alabama Library Association Trustees の Friends section, Tennessee Library Association Trustees の Friends of Libraries section は、後者の例である。Pennsylvania Library Association には、一九四八年以来、州内の友の会を鼓舞し援助するために、図書館友の会委員会が設けられ活発に活動して

いる。

図書館の発展充実を期して、最近設立された州機構の一つに、Michigan Council for Better Libraries がある。この機構は、図書館の奉仕活動と必要性を理解してくれる一般市民を開拓すること、また図書館の奉仕活動の在り方を改善し拡大するために、ミシガン図書館協会と州議会とが協力することを意図して一九五八年一月に設立された。同機構はまた州全域にわたる各地方の友の会の進歩改善にも携わっている。

友の会の仕事

ALA 刊行の図書館友の会に関する種々の出版物をみると、公共図書館友の会は次第に増加してきているが、同時にその消滅率も高くなっている。

たとえば、一九三七年の図書館誌には、友の会は三五あった、そのうち二四は一九五一年には載っていない。同じく一九四一年の八八のうち、一九五一年には五九、一九五五年には五〇が消えている。また、一九五一年の一五三のうち、三七は一九五五年にはなくなっている。アンケートに対する解答の手違いから、多くのグループがカットされたとしても、短命なグループのパーセンテージの高さは明らかである。

大学における友の会の調査に関して、M・アリン・フォクス氏は次のように報告している。

「一九四九年現在、存在している一〇二のグループにアンケ

ートが送られ、六九の解答があった。そのうち活発に活動しているのは三七で、他のグループはそうではなかった⁸」

特別な建設事業の資金募集のために組織された友の会もあった。しかし、それらは、目標額が達成されると活動を停止するか解体するかした。公共図書館の調査報告の中で、ロバート・レイ教授はこの種のグループについて次のように言及している。

「とくに財政的援助を目的として設立されたグループは……、唯一の目的が達成されると、刺激不足になって解体する傾向にある⁹。」

しかし、近年こういうグループは復活して巾広い長期的目標をかかげ、確固とした基盤の上に組織しなおされてきている。これは、経済的援助及び図書館サーヴィスとその必要性を理解するだけにとどまらず、より親密な存在としての、友の会の潜在力を次第に自覚してきたからと考えられる。

一九五五年の公共図書館友の会に関する概観のなかで、友の会を組織した主な動機が述べられている。それは、公的援助を募ること、中央及び地方の公共機関に図書館の必要性を説明すること、図書館についての情報を一般市民に知らせること¹⁰であった。

友の会は、図書館にとって好ましい環境をつくるのに尽力してきただけではない。図書館に対する一般社会の意識を高め、図書館に対する深い認識を喚起してきたのである。

「図書館友の会」について

実際に友の会運動に参加して活動している図書館員や指導員たちの実感は、この運動を推進し成功させるためには、会そのものを真に興味あるものにする、そのためにはかなりの時間とエネルギーが必要であること、さらに友の会と図書館とが協力して発行する会報等は、会員を鼓舞し、また彼らの理解を持続するのに極めて重要である、ということである。

以上述べてきたごとく、友の会は図書館のために図書資料や資金の募集獲得、貴重図書の収集促進、その他必要な設備の準備補充等を行ってきた。しかし、これら物質的な貢献ばかりでなく、図書館の必要性和サーヴィスに関して一般市民の理解を高めたという点をも忘れてはならない。しかも図書館の必要性やサーヴィスの重要性に対する一般市民の認識を喚起しただけにとどまらず、それを具体化することによっていっそう図書館の充実発展に寄与してきたのである。

さらに、研究会、講演会、展示会などを催して、地域社会の教養の場を豊かにしてきたのである。

プリンストン大学で、エレット・W・マクデアミッド氏は、友の会と図書館の協力について語り、次のようにいっている。

「友の会が図書館サーヴィスの充実発展のために、図書の寄贈や、精神的な援助だけではなく、実質的な現金寄贈さえいわなかったということは、真の友の会の現実認識に基づいた積極的な行為以外の何ものでもない。というのは、おそらく今日

のわれわれの社会における他のいかなるグループよりも、それらは団結と協力活動の必要性を十分に認識しているからである¹¹。

最後に、友の会運動の世界的状態をみてみよう。

それは一九五六年に出版された American Library and Book Trade Annual の A L A 図書館友の会の委員会会長による annual summary の結論で指摘されている。また一九六〇年の年報では、もと同委員会の会長だったローレンス・S・トンプソン氏は、合衆国と諸外国においての友の会運動の現状を次のように概括している。

「現在、公共、財団及び私立の研究図書館と協力して活動しているこうした組織は、北アメリカには約五〇〇ある。また、Bodleian とが Austrian National Library のような、ヨーロッパの大きい研究図書館には、強力な、かつ生産的な友の会がある。また、友の会運動は近東にまで広まってきている。

Turkish National Library にある友の会は、きわめて有益な存在として同図書館に寄与している¹²。」

以上により、米図書館友の会の沿革・性格などについてのあらましをご了解いただけたならば幸いである。そこには地区市民たちの、盛んな公共奉仕精神の横溢がみられる。また、みずからの読書への強い欲求、ないしは、「本」についての深い理解の姿もみられる。これをわが国の現在の状況に照らすと

き、これらの運動が希望的であるか、その反対であるか。大学図書館におけるこれらの発展を強く希望する筆者は、日本女子大学図書館友の会の動静に、声援を送りつつ注目してゆきたいと考える。

・原注・

- 1 *Friends of Public Libraries: How They Work* ("The PLD Reporter, No. 3, June, 1955" [Chicago: American Library Association, 1955]), p. 60-61; publication cited hereafter as *Friends of Public Libraries: How They Work*.
- 2 *Ibid.*, p. 5-35.
- 3 American Library Association, *Friends of the Library Groups* (2nd ed., Chicago: American Library Association, 1937); *ibid.* (3rd ed., rev.; Chicago: American Library Association, 1941); *ibid.* (4th ed.; Chicago: American Library Association, 1951); *Friends of Public Libraries: How They Work*.
- 4 American Library Association, *Friends of the Library Groups* (university and college library ed.; Chicago: American Library Association, 1938).
- 5 M.A. Fox, "Friends of the Library Groups in Colleges and Universities," *College and Research Libraries*, 12:

353-54 (October, 1951).

6 *Friends of Public Libraries: How They Work*, p. 61.

7 *Friends of Public Libraries: How They Work*.

8 *Op. cit.*

9 R. D. Leigh, *The Public Library in the United States*;

The General Report of the Public Library Inquiry...

(New York: Columbia Univ. Pr., 1950), p. 124-25.

10 *Friends of Public Libraries: How They Work*, p. 55.

11 E. W. McDiarmid, "Friends and Libraries," *Princeton University Library Chronicle*, 10: 173-79 (June, 1949).

12 L. S. Thompson, "Friends of the Library," *American Library and Book Trade Annual 1960* (New York:

Bowker, 1959), p. 171-72.

・記述・

(1) 昭和四〇年六月二三日、図書館の充実発展を目的として

日本女子大学図書館友の会が発足した。スミス・カレッ

ジ Smith College (マサチューセッツ州・ノーサンプト

ンにある女子大学で、一八七一年に創立。教師二六〇名

学生数二四二六名・蔵書数四五七五二七冊 一九六五年

現在)の図書館友の会等を参考にして、八条からなる会

規を作成している。

会員は普通会員(同学園の教職員・卒業生・在学生及

「図書館友の会」について)

び卒業生の父母)と賛助会員の二通りで、普通会員は年

額一〇〇〇円の会費を納入する。(一時に一〇年分以上

の会費を納めると終身会員となる)。賛助会員は資金・

書籍などの寄贈者で、理事会の議を経たものである。活

動は、(一)図書購入資金の寄贈、(二)書籍・資料その他の寄

贈、(三)研究会・講演会などの開催、(四)見学などの実施、

(五)会報などの刊行である。

会員は、図書館利用の便宜・会報などの配布・その他

友の会主催の諸活動への参加の特典を受ける。

役員は、会長一名、副会長二名、理事若干名で、総会

は年一回六月に開かれる。

彼女はデトロイト公共図書館に長く勤務し、一九三七—

四五年は同図書館のレファレンス部門のチーフを、一九

四五年から退職する五〇年までの間は、ディレクターを

つとめた。同時に、一九四七—五一年はALAの管理局

executive boardのメンバーであった。一九四二—四三

年は、Association of College and Reference Libraries

の会長をつとめた。また一九四二年の Friends of the

Detroit Public Libraryの設立にも貢献した。さらに、

ALA図書館友の会委員会 American Library Association Friends of Libraries Committeeの会長をつとめ

たこともある。

国費でまかなわれるのは国立図書館で、一般に公共図書

館とは区別して考える。公共図書館は国から補助を受け

ることはあっても、主として地方自治体の費用 public

funds で経営される図書館、すなわち公立の図書館である。

(4)

一七三一年、フィラデルフィアにアメリカ最初の会員制の図書館が発足して以来、逐次これにならうところが出てきて、一七八〇年までに、ニュー・イングランドに約五〇の会員制図書館が設立された。会員が一定の金を出しあつて図書を購入し、共同利用しようという組織で、一八世紀には、アメリカにもイギリスにもこの種の図書館が非常に数多く出現した。

(5)

• (6) 一七三一年、ベンジャミン・フランクリン（一七〇六—一七九〇年）が中心になつてフィラデルフィアに設立したもので、会員制の図書館であつた。アメリカにおける会員制の図書館の最初のものがこの Library Company of Philadelphia である。それ以前の図書館はといえば、国侯・貴族たちのつくつたものか、修道院・大学など学者の集まる所に設けられたものばかりであつた。一七世紀には一部の中産階級（中産階級の上層に属する人）が図書を収集するようになったが、それらは個人文庫の域を出なかつた。一八世紀になるといままでとは全くちがつた新しいタイプの図書館が出現した。

(7)

county, regional, and statewide groups.

アメリカの公共図書館には、州立図書館・カウンティ図書館と市立や町立などの図書館がある。州立図書館が、全州民へのサーヴィスをカウンティ図書館を通して行なうため、カウンティ図書館の援助に重点をおくと同

(8)

時に、州議会へのサーヴィスを力をいれれば、カウンティ図書館はカウンティ内の公共図書館及び学校図書館を直接の対象とし、それらの図書館のサーヴィスを強化向上させることによって、カウンティの人々に充実した図書館サーヴィスを提供しようとしている。リージョナル図書館 regional library も同様に、その地区の人々によりよい図書館サーヴィスを提供するものであらうと思われる。

county system

最近の都市の発達、人口の増加、それにともなう利用者の増加などの事情から、それに即した図書館サーヴィスを行なう必要に迫られているのが現状である。そのため本館のレファレンス機能を強化し、地域計画に基づいて分館網を確立しようとするものである。それは市域をいくつかの地区にわけ、地区ごとに一つのセンターをおき、地区センターには、地区内の分館に図書やレコードなどを補給し、必要に応じて館員を応援にくりだす役割りを果たせ、本館・地区センター・分館の線を強化しつつ、分館の小規模な資料だけでは行ないえないサーヴィスの補強を行なうことを目標としている。

たとえば、ニュー・ヨーク公共図書館は、八四の分館をもち、ロス・アンジュルス公共図書館は五二、フィラデルフィアは三九の分館と三七の小分館をもっている。

・参考資料・

- 。図書館ハンドブック 日本図書館協会編 増訂版 一九六〇
- 。学校図書館事典 深川恒喜・井沢純・室伏武編 一九六六
- 。アメリカの図書館 アメリカ図書館研究調査団 一九六〇
- 。図書館の対外活動 竹林熊彦著
- 。図書館学綜説 毛利宮彦著
- 。現代の図書館 L・R・マッコーリン著・斎藤毅訳
- 。アメリカ議会図書館管見 岡部史郎著（図書館研究シリズ No. 10, 1960. 2. 抜刷）
- 。図書館の話 森耕一著 一九六六
- 。The university library; by Louis Round Wilson and Maurice F. Tauber, 2. ed. 1956.
- 。The world of learning.

「図書館友の会」について